

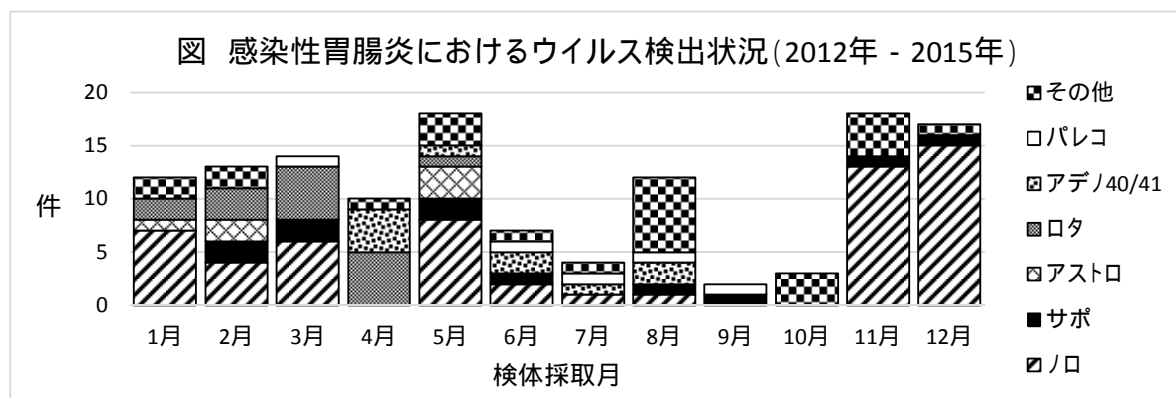
## 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎の患者は年間を通して発生していますが、例年11月上旬からその報告数は増加し始め、12月にピークとなる傾向があります。様々な病原体によって起こり、ウイルス性の胃腸炎ではノロウイルスとロタウイルスが多いとされています。

県内で2012年1月～2015年11月に感染性胃腸炎患者から検出されたウイルスは、ノロウイルスが57件と最も多く、次いでロタウイルスの16件でした。その他のウイルスでは、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス40/41型、パレコウイルス等が検出されました(表)。月別の検出状況では、ノロウイルスは8割近い45件が11月～3月に検出されていますが、5月～8月にも12件が検出されました。ロタウイルス及びアデノウイルス40/41型が検出された時期は限定的で、前者が1月～5月、後者が4月～8月に検出されました(図)。

表 感染性胃腸炎における年別ウイルス検出状況(2012年 - 2015年)

	検体数	ノロ	サポ	アストロ	ロタ	アデノ 40/41	パレコ	その他
2012年	42	15	3	0	4	0	2	0
2013年	38	8	4	2	7	1	0	2
2014年	75	14	0	2	2	4	0	10
2015年	81	20	4	2	3	5	3	13
計	236	57	11	6	16	10	5	25



第49週の感染性胃腸炎は県全体で1,430人の報告があり、定点当たり報告数(8.88)は前週(6.58)より増加しました。また、今年の1月以降、新たな遺伝子型のノロウイルスが国内で検出されています。ウイルスの流行状況、遺伝子変異の状況を把握するためにも、病原体定点の先生方におかれましては、検体採取にご協力をお願いいたします。